

平成30年度 事業報告

旭福祉センター・第二旭福祉センター

■ 平成30年度の重点目標に対する事業経過報告

1. 利用者のニーズに合わせた支援の提供……評価 B

29年3月に第二作業所(通称:竹工)の生活介護とB型再編を行い2年が経過したが、竹工作業班の作業と支援の体制も落ち着き、また、生活介護班も音楽療法などのカリキュラムが更に充実したことで、竹工全体として利用者・家族から一定の評価を得ることができた。それ以外の部門においても利用者の個別ニーズを作業・生活両面からの視点で的確に把握し、ニーズに合った支援を念頭に利用者支援の向上を図った。

人権擁護に関する取り組みとしては、委員会主催によるグループディスカッション・虐待防止チェックリストの活用、施設内研修(H31.1月実施 児玉理事監修)等を行い、支援の向上を図った。来年度以降も充実した支援体制を確立させるべく研鑽を重ねたい。

2. 人事管理制度の円滑な遂行……評価 B

人事考課制度を職員の資質向上に繋げることを主眼に置き、「新人事制度の円滑な遂行」・「考課者の基準の統一」の2つを目標に掲げ、人事考課を実施した。今後更に考課者の評価基準の統一と徹底を図っていききたい。

3. 職場環境の充実……評価 A

今年度の職員一人あたりの年次有給休暇取得日数は 10.78日となった。ただ、業務内容により、一部職種に有給取得数が少ない状況も見られた。業務が異なる点で全く同条件には出来ない実情もあるが、今後 職場内で一層の協力体制を推進していく予定である。

4. 支援委員会・業務改善委員会の円滑な運営を実施……評価 B

① 支援委員会

- 〔生活委員会〕 利用者のより良い生活環境の提供を目標とし、今年度は特に居室環境の充実を図った。強化週間を設け、支援員・利用者が一緒に整理整頓を行うことで、双方ともに意識の向上に繋がっていた。また、各加算の仕組みや個別支援計画の研修を開催し、職員のスキル向上に努めた。
- 〔地域委員会〕 各行事の円滑な運営を目標に、早目の計画と準備に取り組んだ。緑ヶ丘朝市や農福マルシェ等の各種バザーへ参加(計 23 回)し、広報活動と売上の向上に努めた。また、利用者の余暇・外出計画(買い物外出 2 回・利用者同士による自由外出

(月 1 回程度)・宿泊キャンプ・新年会・忘年会・日帰り旅行などを企画・実施し、余暇の充実を図った。

- 〔作業委員会〕 新人育成シートの活用についてはまだまだ不十分な点はあったが一定の成果を上げていた。今年度は簡易版ヒヤリハットメモを作成し、職員がヒヤリハットを挙げやすく改善したことで、各作業班から多くの事案数が上がり、内容を精査し職員間で共有するよう努めた。
- 〔職場改善委員会〕 朝礼や職員会議をはじめ、研修やグループディスカッションを通して職員に啓発活動(挨拶・服装・利用者の呼称など)を実施する。また、職員行動チェックリストやチューター制度などを活用し、人材育成とコミュニケーションの向上を図り、働きやすい職場作りに努めた。
- 〔人権擁護委員会〕 研修会 2 回、グループディスカッション 1 回、虐待防止チェックリストの活用 1 回を開催し、虐待行為の防止 並びに意識向上の機会を作った。また、ヒアリング調査についても昨年引き続き実施し フィードバックを行うことにより、職員が支援の方向性を共有する良い機会となった。
- 〔地域貢献委員会〕 昨年度は「町内会・近隣住民との関係強化」を全職員の目標として各部署の日常業務で実践してもらった。また、地域行事や清掃作業へ利用者と職員が積極的に参加・協力し、交流を深めた。12月には餅つき大会を開催、隣接する7家族・1企業に参加を呼びかけ、3家族、6名の地域の方々に参加していただいた。最後に川上小との福祉体験学習は4年生98名との交流を実施、大変評価が高かった。
- 〔活性化委員会〕 毎月、職場内の改善点などについて話し合いを持つ。また、各部署で困っていることや悩みについても議題として挙げる。今年度はコピー機や冷暖房の使用方法(目的 コスト意識向上)について改善を実施、また、会議室の整理整頓など身近な事案について取り組んだ。ただ、全職員への周知徹底が不十分であったこともあり、委員会メンバー以外の職員の認識が低かった。今後さらなる取り組みが必要である。

② 業務改善部会

- 〔センターふれあいバザー実行委員会〕11月23日に実施(54回目の開催) 天候にも恵まれ1,500名近くのお客様に来園していただいた。実行委員会を早期に立ち上げ万全の体制で臨んだつもりだったが、開始前後の来場者が多く、道路渋滞の対応や駐車場を急遽増やすなどの対策に追われた。
- 〔グループホーム旅行委員会〕 今年度も利用者に対して旅行の希望調査を実施、候補地を決定。今年は3グループに分かれ 県内外へ一泊二日の旅行を実施した。毎年好評であり、また来年はどこに行けるのか 期待を募らせていた。

5. 各作業部門の状況……評価 A

作業の効率化と職員の作業スキル向上

作業の効率化と作業スキル向上(5年の計画 3年目)を作業部門全体の重点課題として掲げ、作業班ごとに育成シートによるスキル向上に取り組むと同時に、中期的な展望での製販計画に沿った計画の達成を目標に掲げ、計画的な実践に努めた。尚、生活介護事業を30年6月より旭センター本体敷地内に移動して事業を継続、移動した当初は職員・利用者に戸惑いも見られたが、特に大きな混乱もなく 運営は順調であった。

蔬菜班…売り上げ目標は達成。野菜管理については、近年 温暖化や災害などに影響を受ける場面が多くなってきており、気候変動への対応が難しい場面が多かった。また、作業場所を変更し、以前よりも活動場所をコンパクトにしたことにより、協力体制や支援面、OJT 等の機会が増え、良い効果が出た。地域との連携も、挨拶から始まり 会話を増やす活動を来年度も続けていきたい。

売上目標 4,200,000 実績 4,598,240 109.5%

菓子班…売上計画を上回り達成。各種行事・イベントについて計画的に行うことができた。課題であった全体・利用者のスキルアップは完全に達成するに至らなかったため、次年度も計画を立てて取り組んでいく。また、SNS 等の活用や広報活動はある程度活用できたが、まだ改善の余地があると考えているので、今後も宣伝をしっかりと行っていく。

売上目標 16,250,000 実績 17,238,730 106.1%

カフェNODOKA…売上を大幅に上回り達成する。1日お客様が来店する保証はできないので引き続き売り上げを下げないように実施できなかったことの計画をしっかりと立案し、接客スキル・広報・宣伝に力を入れていく。

売上目標 6,000,000 実績 7,146,681 119.1%

メンテナンス班…売上計画は未達成に終わる。(要因 新規の定期清掃が1件増えたが、定期清掃依頼がなかった物件があった。)今季の重点目標に掲げていた育成シートの活用は面談や現場での OJT を通して行うことができた。研修カリキュラムの見直し等 不十分な点もあるが、利用者・職員が研修を通して、意識の向上や技術のスキルアップにつながっていた。来年度も継続して OJT と研修を実施していきたい。

売上目標 22,000,000 実績 21,773,868 99.0%

竹工班(軽作業)…売上については未達に終わる。6月より生活介護事業をセンター本体敷地内へ移動したが、利便性が向上したことで利用者支援の充実につながった。また、日頃の利用者情報や作業班・介護班合同の全体会議を定期開催することで情報共有を図り職員間の連携強化に努めた。職員育成については新人職員を中心にスキルアップや業務のフォローを進めていきたい。

売上目標 4,100,000 実績 3,740,683 91.2%

陶芸班・・・お客様のニーズに合わせ、器の種類や釉薬の色を変えながら作品を製作してきた。また、各種催し物や窯元見学をすることで創作意欲が高まり、自分なりの工夫も出てきて、良い製品が数多くできた。今後も各種の見学を取り入れながら製作活動を行っていく。売り上げに関しては未達に終わった。

売上目標 1,150,000 実績 965,621 84.0%

施設外就労班・・・30年12月より 新たな施設外就労が始まる。開始当初は新しい環境での作業に対応するための基盤づくりや、利用者に対するフォローを厚くする点などに重点を置いた体制づくりを行った。今後の動きとしては、顧客との連携体制を より充実させていくとともに、作業面でのスキル向上に力を入れて行く。

実績 (30年12月より開始) 1,300,000 -.-%

各サービス別の月額平均工賃

		H29年度	H30年度
旭福祉センター	生活介護	7,582	9,447
	就労継続B	22,171	26,744
第二旭福祉センター	生活介護	10,042	
	就労移行	11,800	19,117
	就労継続B	23,569	26,164

※平成31年4月末データ

6. 家族との連携強化(家族代表者委員会の活用)・・・評価 A

家族代表者委員会では平成30年度 3回に渡って委員会を開催した。議題としては、30年度の施設主催バザー(春、秋の2回)についての反省、家族会の役員のメンバー交代についての検討、30年度以降の家族ボランティアメンバー選定、障害者施策の情報提供などである。その他、施設の行事報告等を行い情報の共有に努めた。また、毎年8月の家族総会、1月の新年会を行い、親睦を図った。

7. 就労移行に関する情報収集・強化・・・評価 C

今年度は1名の利用者の就労を目標に掲げていたが、対象利用者が30年9月に就職、現在メンテナンス業務に携わっている。現在5名いる一般就労者の定期的な訪問やフォロー活動は 上半期は出来ていたが、下半期は十分な体制を取ることが出来なかった。来年度は定着支援を確実に行っていきたい。

8. 職員研修の充実・・・評価 B

施設内において年間22回(新人・中堅・人権擁護・メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上及び、一般常識的な知識の向上に重点を置いた研修を行った。また、外部研修についても協会主催の研修など、計69回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

9. グループホームの充実……評価 B

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(27名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。尚、8つ目のグループホーム(坂元町)については、31年度(令和2年 3月)を目途に完成予定である。

10. 各種マニュアルの作成……評価 B

各種マニュアル(事故防止、健康管理、各種作業、環境整備等)を修正し、マニュアル集を整備した。引き続き整備を行う予定である。

11. 福祉教育……評価 B

30年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- | | |
|--------------|--------------------|
| ① 保育士実習 | 4名 (2校) |
| ② 特別支援学校現場実習 | 14名 (4校) |
| ③ 福祉学習受け入れ | 98名 (1校) ※川上小学校4年生 |